

仏検の問題点

Un examen à la japonaise : le 'Futsuken'

NOZAKI Jiro
野崎 次郎

Université Ritsumeikan
jiro?ma1.seikyuu.ne.jp

「仏検」(フランス語検定試験) DAPF は、1981 年から日本で行われているフランス語の検定試験制度である。2006 年の春から「あまりにもレベルがかけ離れている」2 級と 3 級との間に準 2 級を設定したという大きな変更があることを除けばマイナーチェンジをしながらも、その日本的独自性を主張し続けてきている。

他方、1985 年 5 月から行われている DELF/DALF (フランス文部省認定フランス語資格試験) は、現在、世界 150 余ヶ国で行われているが、日本で行われるにいたったのは 1991 年からである。(つまり、6 年間のタイムラグがあったことになる。)

DELF/DALF は、フランスおよびフランス語圏の世界において確固たる「標準」の地位を占めてきたが、2005 年からヨーロッパ内の他の言語の検定制度との「統一基準」に基づいて、DELF/DALF は改定された。新しいディプロームは DELF(A1, A2, B1, B2) / DALF(C1, C2) と整備され、フランスおよびフランス語圏に限らず、ヨーロッパの高等教育機関でも広く認可されつつある。

ヨーロッパ諸言語の検定制度を「統合」する基準となったのは、Cadre européen commun de référence (ヨーロッパ共通参照枠) である。

本稿では、まず第一に、極東の果てにある「日本」の地で、いわば「ヨーロッパ」の動きを考慮せずに、日本独自の検定制度を続けることの、メリット・デメリットを出題傾向、配点、合格点、正答率などの面から具体的に検討したい。

第二に、「仏検」と DELF/DALF とのレベル的対応はどのようになるか検討したい。とくに最近の日本でのフランス語教育がコミュニカティブ重視の傾向を強めているにもかかわらず、コミュニカティブな DELF/DALF ではなく、「文法的な仏検」に依拠し続けている現状をどのように評価すべきか考えてみたい。

仏検の問題はどのような性質を抱えているか。さらに受験生、教師たちにどのようなものとして映っているのかを見ていこう。コミュニカティブも大事だけれども、文法もしっかりやっておかなくてはいけないという考えから、仏検の受験を勧めるケースが多いと思われるが、今回、3 級の問題を具体的に細部にわたって検討してみた結果、予想していたほど「文法的」ではないということが明らかになった。

他方でその検討を通じてフランス語教師の間で共有されている摩訶不思議な一つの

謎が解けたということがある。それは 3 級が受かっているのに「フランス語がまるでわかっていない」学生がかなりの数いるという事実である。

以下、具体的に過去問を見ていくが、問題はアットランダムに 4 回分、1998 年春・秋、2002 年春・秋を取り上げた。

まず、APEF が定めている仏検 3 級想定レベルは以下の通り。第 1 外国語として 1 年修了程度、または第 2 外国語として 2 年修了程度、200 時間の授業時間(8 時間(4 コマ)×25 週×1 年、または 4 時間(2 コマ)×25 週×2 年と思われる。これは昨今の大学のカリキュラムの現状からはかけ離れていると言えるだろうが、一応の目安にはなっている)。

初級文法を一通りマスター、動詞の時制で言えば、直説法半過去・大過去、条件法・接続法現在まで。単語数は 2000 語。(『仏検 3・4・5 級問題集』(フランス語教育振興協会)から)

ちなみにその半分(100 時間、1000 語)が 4 級、さらにその半分(50 時間、500 語)が 5 級想定レベルである。さらに比較のためにいえば、DELTA A1 は 80-100h、A2 は 100-120h、B1 は 150-180h、B2 は 200-250h、DALF C1 は 250-300h ということになるが、とくに日本人学習者(日本語を母語とする学習者)にとっては、おもにヨーロッパの地で学習する、ヨーロッパの言語を母語とする学習者を想定して算定された学習時間は、2 倍から 3 倍以上かけ算しなければならないだろう。

仏検の点数配分は、〈資料〉にある通り、筆記 70 点、聞き取り 30 点で、筆記の 7 と 8 だけが各 1 点で残りは各 2 点である。だいたい合格ラインは 6 割から 7 割程度で推移している。平均正答率を合格者に絞って出してみるとどのような「実力」で合格できるかがはっきりするだろうがその資料は手元にはない。受験者全体から、どのような問題がどのような平均正答率を得ているかを見ながら、合格ラインを推定、計算していくとおもしろい事実が浮かび上がってくる。

資料の各問題のあとのコメントを見てほしい。

〈資料〉

筆記(70 点)(□7、□8 だけが各 1 点、残りは各 2 点)

□1.(語彙、記述)(8 点)(平均正答率:89.7%, 56.3%, 70%, 51%)(98 年春・秋、02 年春・秋の順、以下同じ)

* 合成語、熟語などの locutions を空欄補充で完成させる記述問題。書かせるフランス語は、assez, prochaine, pas, bonne などきわめて基本的なもの。正答率は高め。

□2. (動詞の活用、対話形式で記述)(10 点)(44, 51.1, 66, 43%)

1) 98 春 複合過去、単純未来、代名動詞の複合過去、接続法現在、半過去

2) 98 秋 命令法、接続法現在、半過去、複合過去、現在

3) 02 春 近接未来、命令法、半過去、複合過去、接続法現在

4) 02 秋 命令法、半過去、複合過去、条件法現在、単純未来

* 使っている動詞は、arriver 1, être 4, (se) passer 2, faire 4, travailler 2, venir 1, tomber 1, aller 2, avoir 2, dire 1, partir 1 といくつか集中している。にもかかわらず、正答率はきわめて低い。ここで得点できなくても、十分合格できているということである。

□3. (代名詞、穴埋め 3 択)(8 点)(61, 63.7, 57, 53%)

- 1) 関代 où, 関代 ce qui, 再帰代名詞 se, 不定代名詞 quelqu'un
- 2) 人称代名詞強勢形 moi, 疑問代名詞 laquelle, 関代 dont, 中性代名詞 y
- 3) 関代 où, 指示代名詞 celle, 人称代名詞 la, 人称代名詞 me(直目)
- 4) 不定代名詞 rien, 中性代名詞 y, 関代 avec qui, 人称代名詞 leur

*ここも正答率は低め。ここで少ししか得点できなくても、十分合格できる。

□4. (前置詞、穴埋め 8 択)(8 点)(44.3, 65.9, 46, 46%)

- 1) à, de, après, par
- 2) à, dans, sans, pour
- 3) sous, par, en, sur
- 4) par, à, entre, avec

*ここも正答率は低い。ここで得点できなくても、十分合格できているということだろう。

□5. (整序問題、語順 5 個の 3 番目の単語を選択)(8 点)(62.3, 69.5, 79, 65%)

- 1) 知覚動詞 regarder, 人称代名詞の語順、dire de + inf., avoir peur de + inf.
- 2) C'est ... qui, 命令形 + 人称代名詞、avoir l'habitude de + inf., Vous pourriez + inf. ?
- 3) aussi ... que, 間接疑問 quand, venir + inf., Ça fait ... que
- 4) autant ... que, ジェロンディフ、un des ..., aller avec (似合う)

*ここの正答率は高い。この問題に正答できることが合格者の平均的イメージだろう。

□6. (対話の完成、ふさわしい応答を 3 択)(8 点)(82.5, 83.5, 84, 81%)

- 1) Comment fait-on pour + inf., avec qn., Je le prends., Dites-leur mes amitiés.,
- 2) Je peux vous aider ?, C'est à quel nom ?, parler de qui ?, Tu veux que ...
- 3) l'après-midi, boulangerie, quand ?, y aller
- 4) loger chez qn., Ça fait ... que, où ?, quand même

*ここの正答率はきわめて高い。ここは配点が 2 点のところ。ここで得点しておけば合格に近づく。

□7. (フランス語で近い意味のフランス語の文を選ぶ、またはフランス語による説明でフランス語単語を選ぶ)(* 日本語は一切出さない)(6 点)(58.1, 69.6, 79, 74%)

- 1) 動詞表現
- 2) 動詞表現が主だが、形容詞も。
- 3) On y + 動詞の現在形から、単語(lit, cave, bureau, jardin, cuisine, salon)を選ぶ。
- 4) On met ... pour + inf. から、単語(gants, pyjama, ceinture, lunettes, chapeau, montre)を選ぶ。

*ここの正答率も高い。この問題に正答できることが合格者の平均的イメージだろう。ただし配点は 1 点なので、間違えても大きな点差にはならない。

□8. (長文(11~15 行)の内容の正誤(日本文)、○3 つ、×3 つが多いがそうでない場合も)(ほとんどが一文ごとの日本語訳(裏返しのものも含めて))(6 点)(90.4, 88.6, 93, 84%)

*ここの正答率はきわめて高い。配点は 1 点だが、ここを確実にとっているものが合格するということである。

□9. (会話文の空欄補充、4カ所に7つの文から選ぶ)(8点)(70.7, 65.2, 93, 73%)

- 1) 花屋で配達を頼む。
- 2) もと小学校教師に当時のことをインタビュー。
- 3) ベビーシッターに仕事の依頼。
- 4) 靴店で店員との会話。

*ここも正答率は高め。配点が2点であることから、合否を左右する。

聞き取り(30点)(すべて各2点)

□1. 部分書き取り(10点)(54.4, 61.4, 47, 59%)(あとにあるのは書くべきフランス語。)

- 1) 道順を聞く。Pardon ? à gauche, trouverez など
- 2) カフェのウェイトレスと客との会話。vous désirez ? plat, fromage など
- 3) 旅先(Tours)からパリの友人に電話をかけ、パリで会う約束をする。surprise, pas encore, pays, vingt-six (26), seras
- 4) SNCFの窓口で切符を買う。midi vingt-cinq (25), Parfait, octobre, (aller) simple, bon voyage.

*正答率はきわめて低い。この程度のスケッチは伝統的な教授法で「文法読本」と呼ばれているもののうち、会話編などに出てきそうなものばかりである。これができなくても合格できるというところが、正直信じられないが事実なのだろう。逆に言えば、この問題ができた半数の学生は、この程度のスケッチをやっておくだけで合格できてしまうということでもある。

□2. フランス語文をきいて、内容にふさわしい絵を選ぶ。(10点)(67, 90.4, 94, 99%)

- 1), 2) (略)
- 3) 1) J'aimerais bien monter à la tour.
- 2) Je n'arrive pas à ouvrir la porte.
- 3) Je ne peux pas dormir à cause du bruit.
- 4) Je vais faire un bon gâteau.
- 5) Je voudrais mettre mes bagages en haut.
- 4) 1) Il aime lire le journal dans le métro.
- 2) Il doit travailler jusqu'à 2 heures du matin.
- 3) Il prend le petit déjeuner dans un café.
- 4) Il prend une douche avant d'aller au bureau.
- 5) Il va acheter un carnet de tickets.

*98年の春を除けば、きわめて高い正答率である。この問題が点数の稼ぎどころといったところである。全部が聞き取れなくても、キーとなる単語・表現が2つ出てくるので、そのうちの1つが聞き取れれば正解できる。文を聞き取るというよりは、全部聞き取ろうと欲張らずにキーとなる単語を聞き取りさえすれば解答できるという要領をあらかじめ身につけていればできる。高いはずである。

□3. (98春だけ、フランス語文をきいてふさわしい応答のフランス語文を選ぶ。他は、対話文(十数行)をきいて正誤問題)(10点)(44, 93.4, 94, 80%)

- 2) ブティックの店員と客のやりとり。

3) パリに来る学生たちがパリの生活とアパートについて話す。

4) 友人たちが誕生日祝いなどについて話す。

*こども 98 年の春を除けば、きわめて高い正答率である。すぐ上の聞き取り 2 番とともに点数の稼ぎどころである。

個別に述べたコメントをまとめてみると、文法の問題で落ととしても、簡単な熟語やスケッチでの会話のやりとりのいくつかを学んでおけば十分に合格できてしまえるということである。それはヒヤリングの問題についても言える。あらかじめ出てきそうな状況を学んでおけばよいからだ。アトリエの準備中には「文法的な仏検」の重要性を検証できる機会と考えていたが、思わぬところに来てしまった。

仏検は、2 級、1 級と行くにつれ、locutions の積み重ねという傾向が強まっていくのだが、その傾向がすでに 3 級で出始めている。確かにフランス語の知識が増えるにつれ、locutions は増えていく。しかし学力のある人は locutions があるとは言えても、locutions のある人は学力があるとは必ずしも言えない。だから、locutions を学力のメルクマールにすることはあまりいいことではないだろう。ましてや、合格点が必要以上に低い場合にはメルクマールにすらならない。

さらにそれは場合によっては害になることもある。単語帳などで単語力を増やすということが語学の勉強であるかのような憂うべき誤解が生じ、語学の勉強が苦役のようになってしまうからだ。この傾向がもし「日本的」であるとしたら、これは改められなければならない。楽しみを苦役へと矮小化していく誤った傾向は是非とも避けなければならない。

locutions は、実際の会話を実践していく中で、実際の長文を読んでいく中で、そのような状況を楽しみながら、結果としてついてくるようなものであるはずである。それを目指すべきだろう。中級、上級に進むにつれてこそ、まさに語学を学ぶ楽しさへと回帰しなければならない。その道を探るべきだろう。

仏検は日本でかなり普及し、学習者の motivation 高揚に大きく寄与していることは否めない。とくに高校生の 5 級、4 級など高校でははずせない構成要素になっているようだ。また受験者のかなりの部分を占める社会人にとっても階段を上るように学習効果を確認するというのは楽しいことなのだろう。

しかし、仏検試験問題の内容を見ると「楽しいフランス語」とは別の方向を向いているのではないかといわざるを得ない。少なくとも「フランス語本来の楽しさ」は仏検が提供している「楽しさ」よりもはるかに大きいと思う。その可能性を小さくしてしまうのはまずいだろう。少なくとも可能性を広げる方向を向くべきである。

最近の大学における語学教育の傾向として、コミュニカティブ・アプローチがあげられるが、その教材にフランスで発行された教科書(いわゆる méthodes)を採用するところも増えている。そのようなところでは、DELFDALF を、あるいは TCF (Test de connaissance du français)を到達度判定の試験として取り入れる動きを見せているようだ。

関西大学では全学的に Taxi ! などの méthodes を教科書に採用し、到達度を TCF で判定するとのことである(cf. Utako Kikuchi, « La réforme de l'enseignement du français à l'université Kansai », in Le FLE au Japon : un regard croisé franco-japonais (Congrès de la Société Japonaise de Langue et Littérature Françaises, 20 mai 2006, Keio-Mita))。関西大学の実験的な試みに注目したい。